

第1回 富山県地域包括ケアシステム推進会議（委員発言要旨）

（岩城委員：県社会福祉協議会）

- 「いきいきサロン」「ケアネット活動」について紹介。
- 高齢者の生活実態に応じた福祉サービスの実施や、高齢者が利用できる日常生活サービスの企画が必要。

（島田委員：県老人クラブ連合会）

- 「訪問支援活動」を通じた取り組みについて紹介
- 高齢者自身が社会的役割を担うことにより、生きがいのある生活となり、介護予防につながっている。

（谷井委員：県自治会連合会）

- 社協や民生委員との連携を密にして高齢者対策に十分配慮することが必要。
- 認知症や一人暮らしの高齢者の増加に伴い、空き家問題が大変重要な問題になってくる。

（岩田委員：県婦人会）

- 地域活動におけるリーダーが不足しており、リーダー育成が大切であるとともに、高齢者や若者を地域づくりにもっと巻き込んでいく必要がある。
- 地域活動は民生委員や団体の役員、実施団体に任せっ放しという意識ではうまくいかないの、住民意識の改革が必要。

（高山委員：県民生委員児童委員協議会）

- 一人暮らし高齢者や高齢世帯の実態把握が難しくなっている。
- 在宅での急変時の対応や訪問看護等の充実が課題。
- 命のバトンで個人情報が出てしまうという事例もあったため、見守りの方法やシステムのあり方をもう一度考えないといけないのではないか。

（勝田委員：認知症の人と家族の会）

- 認知症カフェの取り組みについて紹介
- 認知症に対する差別や偏見がまだまだ強い。認知症を正しく理解し、「誰でもなる」、「お互い様」ということを県民の方々に理解していただきたい。

（横川委員：県食生活改善推進連絡協議会）

- 高齢者を対象にした低栄養予防教室や「一皿運動」などの取り組みを紹介
- 男性の自立が一番大事であると思っている。男の料理教室をもっと進めていき、自分で食べることを覚えていくということが大切であると考えている。

（藤田委員：県医師会）

- 在宅に関してはようやく体制が少しずつ整ってきたが、診療する医者自身が高齢化してきており、将来に不安がある。
- 救急体制を含め医療全体が安定したものでなければ、地域包括ケアシステムも機能しないのではないかと。
- 生活や住まいという面では、医療・介護以外の分野の方々が非常に重要。本人の自覚と家族の協力、近隣の方々、地域の多職種の方々の協力が必要である。

（高原委員：県介護支援専門員協会）

- 専門職と地域住民が力を携え、支え合う仕組みづくりが重要である。
- 地域の実態が、同じ市内でも地域によって違うので、住民自身が、財政面も含めた地域の現状と課題をきちんと理解できるような啓発も必要ではないかと。
- 高齢者の生きがいづくりや、地域社会からの孤立防止のためにも、高齢者が働ける場を確保する必要があるのではないかと。

（佐伯委員：県市長会）

- 市町村だけではマンパワーが不足するので、民生委員、地域包括支援センター、自治振興会などの力も活用し、効率的に機能するよう一生懸命進めている。
- 高齢者を抱えている家庭や家族の方々が、相談しやすい体制づくりが重要。

（上野委員：県町村会）

- 地域格差が出ないように、ある程度特別なものについては、広域圏という単位での考え方が必要ではないかと。
- ワーキンググループを利用し、地域格差が出ないようにしてほしい。

（松浦委員：県生活協同組合連合会）

- 高齢者宅への宅配、ボランティア活動（掃除や買い物代行の助け合い活動、サロン活動）、射水市・上市町との地域見守り協定を締結について紹介
- 認知症サポーターの育成を、組合員等含め5,000名規模での拡大を検討中。

（山本委員：県JA中央会）

- 助け合い組織（高齢者預かり、手伝い）、「100歳プロジェクト」の紹介
- 介護保険の改定に向けて、助け合い組織の方向性について今後検討。

（本林委員：県ケーブルテレビ協議会）

- 買い物とか行政窓口サービスなどについても、国・県・市町村などとタイアップしながら、高齢者の方が簡単にICTによるサービス利用が可能となるようなものを提供したい。

（山本（泰）委員：N T T西日本富山支店）

- N T Tが行う「公民館施策」について紹介
- 家のテレビをリモコン感覚で操作しながらI C Tを活用する仕組みを提案。
- 高齢者のI C T利用を支援するサポーターづくりが重要。

（滝澤委員：インテック）

- 総務省委託事業（富山市・松山市）等を紹介
- 地域包括ケアにかかわる様々な事業者を横断的につなげるネットワークのインフラを充実する必要がある。

（南委員：日本郵便北陸支社）

- 各郵便局での地域の見守り活動という形での協定の内容等に関する紹介。
- 今後とも、市町村との協定の締結、協力依頼というような中で、地域の高齢者の見守りなどに協力していきたい。

（宮村委員：北陸銀行）

- 富山市・高岡市の高齢者見守り事業への参画、詐欺防止の啓発活動、認知症サポーター研修の受講、営業活動時の高齢者への声かけ等について紹介

（小竹委員：県バス協会）

- 高齢化社会に向けて現行のバス路線を維持確保していくことが、我々事業者の使命であると考えている。
- ノンステップバスの導入に引き続き取り組んでいきたい。

（笹嶋委員：県タクシー協会）

- 通常業務において、高齢の利用者の買い物の手伝いをするとこともある。
- 高齢者宅に設置されている「24時間緊急通報システム」から緊急通報があり、確認に誰もいけない場合に、一番近い車が行き、安否確認等を行うこともある。
- 「UDタクシー」の導入に伴う乗務員への教育が今後必要。

（今村委員：県建築士協会）

- 家庭内事故を防ぐためにも、住宅のバリアフリー化が必要。

（丹羽オブザーバー：富山大学地域連携推進機構）

- 調査研究、医療あるいは介護・看護の人材育成について、今後とも取り組んでいきたい。
- 在宅ケアを基本とするためには、非常にネットワークが重要であること、また、そのコントロールタワーをどのように置くかがカギとなると考えている。